

同窓会報

第44号

平成8年8月18日発行

富山県立上市高等学校同窓会



母校と同窓会の発展を願う



同窓会副会長 伊東政信

今年も猛暑など異常な天候が続いていますが、同窓会員の皆様には益々御健康で、それぞれの職場等で御活躍のことと存じ、御慶び申し上げます。

さて、慣例によりますと、同窓会報には同窓会長さんの御挨拶が載せてありますが、今年、柳瀬会長さんが体調を崩されて入院との事から、過ぐる7月19日(金)の役員会で、止むを得ず私が代理で記載することになりました。この経緯を御了承いただきたいと思ひます。

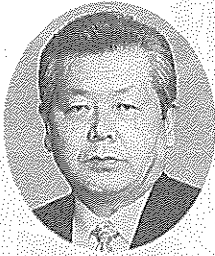
母校・上市高等学校は、校長先生をはじめ教職員の方々が一丸となって、生徒の育成に努力され、平成6年度の富山全国総体では、空手道競技が男・女団体組手の部で5位に入賞。また、昨年度の岡山全国総体では、ボクシング競技が2階級で3位に入賞するなど、輝かしい成果を上げられましたことに深く敬意を表しますとともに、

私達、同窓会員一同このうえもない誇りと思っております。なお、平成12年には、本県で国民体育大会(2000年国体)が開催されます。母校の在校生の皆さんが雄々しく御活躍されんことを期待いたします。

時代は高齢者社会の到来、情報化、国際化といちじるしく進展し、これらの出来事は、良きにつけ、悪きにつけ、すべて人がつくったものであります。今後も社会を動かすものは、人であり、人づくりこそが今の私達に課せられた最優先課題であると思ひます。

今後とも、母校・上市高等学校が友情溢れる同窓会として、新しい歴史へと力強い第一歩を踏み出し、伸展することをお願いするものです。

会員の皆様には、健康で御活躍されんことを御祈念申し上げます。



「生きる力」を育むことを目指して、 校訓を考える

富山県立上市高等学校長 新 畑 彬

先般東京虎ノ門ホールで著名な先生の御講話を拝聴する機会がありました。その際「……それぞれの学校に校訓なるものがあるが、たいてい三つか三つ掲げられている。ということは、ひとつも実行されていないということだ。ひとつで良いものだ……」という主旨の発言がありハッといたしました。

我が校は「勤労・自治・向上」であった筈だが、さていかなるものか。気にとめながらいたところ、「校訓と由来」についての文章を見つけました。それは、校友会誌第9号に、旧制富山県立上市農学校初代校長森谷一先生の講話より要約したものでありました。それは次なるものであります。

「本校創立当時、この地の文化は非常に低くあったように思えました。そこで北陸の文化の向上を目標として一生懸命尽くそうと思いました。口先よりも実行が有効と思われまして、働いて仕事を立派にやるという意味で、勤労なる校訓をこしらえました。また、時勢の進運に伴って、教えられるままではますます遅れるばかりですから、進んで自らを治める、すなわち自治的生活をやらなければならないと考えました。

「勤労・自治」をもって北陸の文化を「向上」せしめようと、この三語を将来守るべき学校の目標・校訓としたのであります。」

さて、ひとつも遵守されていないとみるべきでしょうか。校章から勤労をあらわす「鎌の刃」が除かれ、総合制高校となっている現在でも、この校訓はセリットでいかなものかと考えています。

時あたかも教育改革という大きな風が吹いており、小学校から大学にいたるまで、これを追い風とするか否かで、それぞれが知恵を絞っているところでは

先般文部大臣の諮問機関である「中央教育審議会」(会長有馬朗人)から審議の報告が公表されました。同審議会では「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」審議をしてきており、その報告の中で現在の学校は、多くの教育課題を抱え込んでいます。そのため日常生活のしつけや学校外での巡回補導指導など、本来家庭や地域社会が担うべきものについては見直しをして、学校をスリム化し、その一方で家庭と地域社会の教育力を高めこの三者のバランスを整えることにより「ゆとり」を確保し、今後の教育の基本方向である子供の「生きる力」を育むこととする。というのが審議報告のおおきな柱でありました。

この「生きる力」とは、今までは知識習得に偏りがちの教育でありましたが、子供たちに必要であるのは、自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、問題を解決する資質や能力のことです。この資質や能力こそが「生きる力」であるとしており、これらの趣旨を踏まえながら、本校の将来あるべき姿を求めていかなければならないと考えています。

梅雨の中休みなのか朝から爽やかに晴れ上がり、春季スポーツ大会が行われている。あちこちで歓声が湧き上がっている。馬術部の「カタリナ」号(1975年米国産、サラブレッド 雌)は、未だ健在で毎日部員との会話を待っているようです。人間の年齢に換算するには4倍するそうですが、いつ訪ねてもズーッと待っていたかのようにあの大きな目で迎えてくれます。

同窓生のみなさん、特に「カタリナ」との出会いのあったみなさんには、折がありましたら是非お立ち寄りください。終わりにになりましたが会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈りしてご挨拶といたします。

上高の復活と同窓生の支援

富山県立上市高等学校教頭 稲葉 栄一

母校に勤務させていただいてから、はや6年目を迎え責任の重大さを感じています。本校では学習指導、生活指導、進路指導等に工夫と苦勞をしているのが実態です。

地元の同窓生の皆さん方から、「上高は一体何をしようかや。」「さっぱり大学へ入らんにか。」「あの服装は何かいね。」と言うお叱りの言葉やら「部活が少し強くなったね。」とおっしゃる方々まで、色々ご意見をいただいています。それらの声を拝聴しながら努力をしている昨今です。現在普通科においては、文・理・国際英語・福祉健康・情報事務の五類型に分けた指導を行っています。これは生徒の「進路や適性に応じた教育を」との考えから本校独自で実施しているものです。最近当局より平成9年度を目途として、総合学科の検討を依頼されています。総合学科については全国に先進校が45校ありまして、その情

報を収集して十分な検討を加えて行く事が必要だと考えています。基本的には生徒1人1人の個性や進路希望を生かすにはどうすればよいか、それが大きなテーマだと思います。生徒1人1人が自分に合った教育を受ける事が母校の復活にもつながる事だと信じています。同窓生の皆様には今後とも物心両面におたる絶大なご支援をお願い致します。本校野球部が昨年30年ぶりの北信越大会出場を果たしましたが、生徒の努力の陰には野球部OBや同窓生各位の多大なご支援があった事をお知らせしておきたいと思ひます。同窓生の皆さんのご支援がいかに生徒の心の支えとなり、励ましとなり、明日への力となるかをご理解いただきたいと思います。同窓生の皆様のご発展とご多幸をお祈り致します。

◇◇◇思 い 出◇◇◇

卒業50年

吾・上農生の頃

昭和21年3月に「螢の光」に送られて上市農林を卒業、アレモナイ、コレモナイと戦後の極端な物不足の世に船出してから早や50年、17才の紅顔の美少年？も喜びも悲しみを数多く重ね、その上寄る年波には勝てず、今や老醜をさらすのみの67才。今更ながら月日の流れの早かったことに驚く今日この頃です。

昭和12年に始まった日華事変が泥沼化しつつあった16年に小学校を卒業。その年の12月8日ハワイ真珠湾の奇襲にはじまる太平洋戦争に突入、更には17年4月B-25(米軍機)による日本本土初空襲、この間国内では「米の配給制」「塩の配給制」「衣料の切符制」等の公布と、世相もなんとなく厳しさと慌ただしさを増してきました。こんななかの昭和18年に本科(林業科)へ、程度のよい南京袋で仕立てたような制服・戦闘帽で毎日毎日桜並木の続く校門を通ったものでした。

19年からは「学徒戦時動員」により、中学生以上は軍需工場へ勤労働員される事になりましたが、幸か不幸か吾農林学校生は食料増産のためか工場へ行くこともなく農家への勤勞奉仕、丸山農場の開墾、そして須山の演習林へとモッバラ暗耕雨誦の日々を過しておりました。

町育ちの私には、いづれも馴れない仕事で皆に大変迷惑をお掛けしたと思ひます、殊に田の草取りのコロナガシの際にはヘルに吸い付かれて大いに困った事が強烈

上市高等学校林業科 第23回(昭和21年3月卒業)

西川 静雄

な印象となっており、いまだに当時を思うとゾーッとさせられます。

4年生の19年には、援農隊として北海道へ、もっとも私は、体が弱かったので参加させてはもらえませんでした……、淋しい思いをしたものです。

20年の最上級生、この年「女子専攻科」が設けられ、むくつけき男ばかりの学園が花園に？なりました。トハ言ってもその教室は敷地の外れ旧寄宿舎、拝顔の榮に浴せるのはセイセイ朝礼の時くらいのものでした。ナニシロ「男女7才にして席をおなじゅうせず……」の時代ましてヤニキビ輩やかな悪童連を抱えてのこと。先生方もサゾカシ気をお使いになったことと拝察いたします。

ソウソウこの年の2月米軍が硫黄島に上陸、4月に日本軍玉砕、この際同級生「成瀬 知君」の戦死という悲しい思いがあります。さらにこの月米軍の沖繩上陸、6月沖繩占領、そして富山の空襲、広島・長崎の原爆投下、ソ連の参戦などがあって、8月15日の敗戦を迎えました。

このように書いてくれば、私達は極めて暗い学生時代を過ごしたかに見えますが、多くの諸先生・先輩・同僚に支えられ十分に鍛えられるとともに、思い切り青春を謳歌させていただいたものです。

吾・母校上市高校よありがとう、そして永久に榮えんこと……。

卒業40年

卒業の頃の思い出

「卒業40年組の集い」の世話人会と云う事で連絡を受けて、久じぶりに上市高校に来て、入学から卒業（昭和31年3月）までの3年間の学校生活を思い出して見た。外見的には40年前の面影は、ほとんど何も残っていない。三杉公園の杉の大木（現在根だけが保存されている）古い校門、木造の校舎、古い鉄筋コンクリートの農業関係の職員室、等々。なにかさみしい気がする。しかし、古い桜の大木の並木道、学校内に入ると校訓「勤労、自治、向上」と書かれた額があった。なつかしい、在学中の事がつぎつぎと思い出される。私達が卒業した頃は、景気の回復が初まり、高度経済成長の道が作られ出した頃である。そのためか、今とちがいで、大学入試も、又就職もそれほど難しい時代ではなかった。私自身授業時間だけが勉強であり、家にかえってからは農作業の手伝いをさせられ、予習も復習もほとんどしたおぼえがない。テストの前日くらいに仲間と集ま

上市高等学校農業科 第8回（昭和31年3月卒業）

金田 幸二

ってテストに出そうな所をチェックするくらいである。毎日の生活の柱はクラブ活動である。私はサッカー部にいた。今から思えばスポーツに多くのお金を使える事の出来ない時代である。サッカー部にボールが5～6コしか無く、新しいボールは試合用にしてあまり使わずにいた。又自分で買う力もない。スパイクを買うのがやっつである。ボールは表皮が薄くなりだんだん大きくなって、やわらかくなるまで使う。それが普通だと思っていた時代だ。しかし終戦から10年ほどたち、心の豊かさを取りもどした頃でもあった。今思えば、3年間的高校生活は実に楽しい事ばかり思い出される。学校へ行く事が、授業が、クラブ活動が、そして実習も、どれ一つとっても、クラスに連帯感があり、友達を思う心の余裕があった。又先生方の教えにも温かさど、なにかしら心に感じられる物があった。それを今も時々思い出している。

卒業30年

なつかしい上市高校時代

北アルプスの雲にそびえる雄峰に源を発する清流上市川のほとりに佇み、夢多き日々を育んだ上市高校。この上市高校を卒業して、もう30年が過ぎようとしています。歳月の流れる速さに驚いています。

上市高校の教訓は、質素で逞しい言葉の響きで、私達の心を導いてきました。

「勤労・自立・向上」は、ともに学んだ同級生565名の魂の形成の歴史の1ページに現在までも輝いており、忘れることはできません。

くちびるにうかぶ校歌の一篇、「上市高校に学ぶわれら、愛と誠の頬をかざし、自由の鐘を鳴らさんかな」

「汗と進取の鍬かざし、平和の園を築かんかな」
「清く優しき花かざし民生の薬土創らんかな」
がなつかしさをかきたてます。

先生方からは、温かく優しく、時には厳しく先輩に続き頑張れと励ましていただきました。学習の合間に、奉

上市高等学校普通科 第18回（昭和41年3月卒業）

稲葉 悦子

仕の精神でグラウンドや校庭の除草を行い、自らの心を磨いたことも思い出の1コマとして残っています。

当時の校長先生からは、「平常心は關心」につながるとか、「一隅を照らす」人となるよう努力することの大切さを教わりました。

校舎周辺の自然環境の豊かさは今も同じですが、春には、お茶畑に続く桜並木の美しさに心を動かされ、夏には野球部の応援に声援を送り、秋には、東橋の下の大きな石に腰かけて友と語り、冬には、剣岳の厳しい姿を仰いで過ごした3年間。30年の月日を経た現在、さらに思いを新たにすることができます。

普通科に類型を実施し、将来のために新しく総合学科も検討しておられるようですが、社会の変化に対応して個性的に生きる生徒を育成して行って欲しいものです。

青春時代の心の支えとなった上市高校の今後ますますの発展を願っています。

卒業30年

高野 博之

上市高等学校普通科 第17回（昭和40年3月卒業）

母校は永遠の心の糧

私が上市高校に在学していた頃の一番の思い出は、野球部が甲子園の出場をかけて、北信越大会の決勝戦にまで進んだことです。バスで試合場に出向き、夢中になって応援したことは忘れません。クラスのほとんどが大学へ進学しましたが、それぞれの将来について夜を徹して語り合ったこともありました。今は当時の学窓も全国に散らばり、それぞれの道を歩いていますが、たまに顔を合わせると故郷の兄弟に会ったような気持ちになります。

碓井憲夫

これからの人生を問いなおす学生時代を、全国各地から青年が集まる東京で送らせていただいた後、都会の雑踏を離れ、海あり山ありの故郷に帰り就職いたしました。数年前事情があって20年間働いた職場を退職し現在自由業のようなことをやっていますが、上市川の清流と古い桜並木。鰯岳を背にした風光明媚な地にある上市高等学校は永遠の心の糧であります。

卒業20年

上市高等学校薬業科 第28回（昭和51年3月卒業）

20年経った今でも

土井 奈緒美

卒業20年の案内を受けてほんとうにもう20年経ったのかと改めて思われました。

昨年は数年振りにクラス会を行なってみると、姿・形は変わっていても気持ちは昔のまま、昔話にも花が咲きました。それにもまして子供の事等にも花が咲き、良き父親？良き母親？ぶりもみせつけられました。しかし残念な事に恩師である酒井先生は数年前に他界され、クラス会に呼ぶことが出来なかった事です。又2人のクラスメートも他界してしまっていた事も非常に残念で、機会があれば1回でも多く会を持ってたらと思いました。

又数年前から「薬業科」の文字が消えた事は非常にさみしく思います。薬業棟に於いての実習等数々の思い出が甦ってきます。「農業科」「生活科」「農林工学科」の文字も消えてしまいました。今私が住んでいる所は丸山農場に近く高校の車を見かけるとなつかしく、農業科の生

徒が行なっている野菜の即売会等はこれからはどうなるのかなあ……。

高校時代での一番の思い出は「生物室」で過ごした時間です。少ない部員でしたが何かと部室に集まり、武田先生と話したり、菊井先生の事が思い出されます。見る人は少なかったかもしれませんが「四季の草花」もよく続いたと思います。又3年生の時の「文化祭」「体育大会」もつい昨日の様に思い出されました。とても楽しい高校生活だったと思います。

今、この時も今しかないんです。あと10年経っても20年経ってもよい思い出として残していける様な有意義な思い出を作っていきたいものです。

最後に、最近野球等でも「上市」の名を聞くと自然と校歌を口づさんでしまうのは私だけでしょうか？今後の我母校の発展を心より祈りたいと思います。

